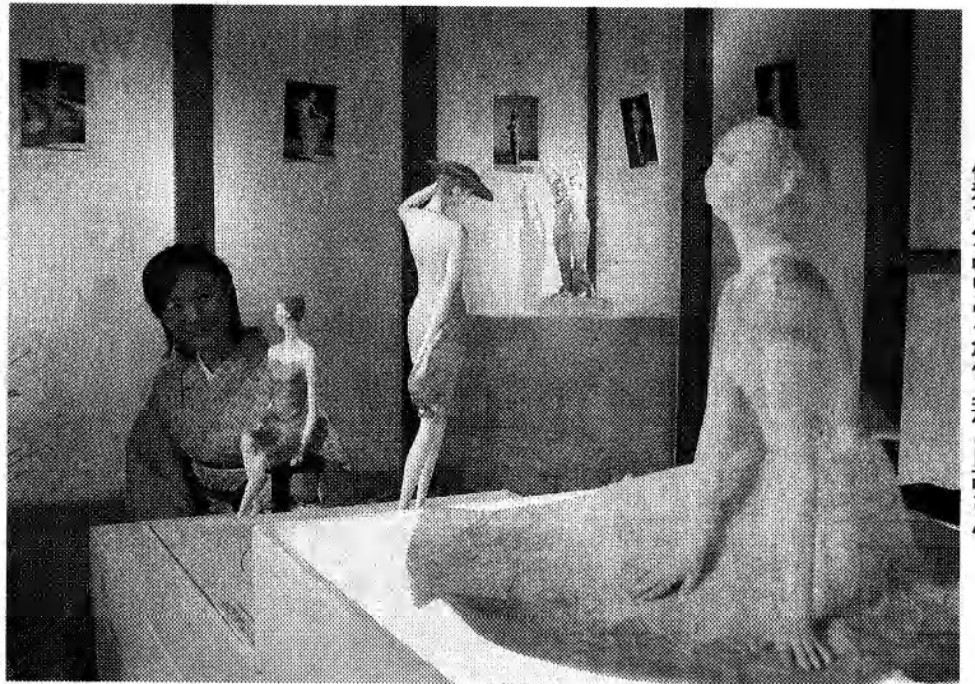


山口新聞

2006年(平成18年)10月13日 金曜日

下関の風感じる人形も 日高さん里帰り展始まる



優雅で気品のある創作人形と日高さん

17日まで長府庭園に35点 来月、旧英国領事館でも

ワンピースを着て、風に揺れる帽子を押さえる女性像は、自身の子ども時代に地元の海岸で撮った写真からイメージを膨らませたもので、下関での体験が原風景になった作品も。ジャズなどの音楽を聴きながら気に入った曲に出会うと、そこに立たせたい女性像が浮かんでくるという。

「プロとアマチュアの中間」(日高さん)というものの、二〇〇三年には「風の径」がオメガ時計のイメージキャラクターに採用されるなど、活躍の場も広い。末の娘さんが今春大学に進学し、人形作りが生活の中心に。「女性像はいくら作っても飽きない、作り足りないなので、宿題ばかり」と創作活動に打ち込んでいる。

下関出身の創作人形作家、日高朋子さん(茨城県日立市)が十二日から長府庭園で里帰り展を開いている。高校を卒業後、下関を離れて三十年。の個性を企画した。日高さんが手がけるの形。時代に流されない「今」をしっかりと見つめる女性を表現し、会場に三十五点を展示した。長府庭園では十七日まで。十一月十四日から二十日までは会場を旧下関英国領事館に移して開かれる。

下関